

基本目標 2 誰もが住みたい朝倉

数値 目標	評価指標	基準値	目標値
	社会増減数	△1,112人 (H22～H26累計)	△927人 (H27～H31累計)

社会増減数：総務省「住民基本台帳に基づく人口、人口動態及び世帯数に関する調査」H22～H26

朝倉市は、人口ビジョンの分析からわかるとおり、過去20年間を通じて転出数が転入数を上回る社会減が続いています。特に大学等の進学や就職を迎える10歳代後半から20歳代の流出が顕著であり、若年層が朝倉市に定住するためのニーズに対応することが必要です。

その一方で、50～60歳代は増加の移動となっています。転職や退職により出身者がUターンするケースとあわせ、シニア世代の移住が増えており、この転入を活用する取り組みを進めていきます。

若年層を対象として朝倉市に定住を続ける環境づくり及び子育て世代からシニア世代まで幅広い年代から住んでみたいと思われるまちを目指します。

(1) サポート体制の充実

数値 目標	評価指標	基準値	目標値
	移住・定住ポータルサイト 閲覧数	— (H26)	10,000件 (H31)
	移住希望相談件数	— (H26)	50件 (H31)

移住・定住ポータルサイト閲覧数：朝倉市ホームページアクセス件数行政情報課調べ

①移住・定住情報の発信

- ・移住・定住ポータルサイトを充実し、多様な情報発信を行います。

②移住・定住相談窓口の開設

- ・移住・定住に関わる情報の提供及び相談を受け付ける窓口を開設します。

③移住・定住フェア等への参加

- ・大都市圏での移住・定住フェア等への積極的な参加に努めます。

④CCRC（継続的なケアができるコミュニティ）の促進

- ・1996年（平成8年）にシニアタウンとして開発された美奈宜の杜地区におけるCCRCを支援していくこととあわせ、「人を呼ぶしくみ」を市内に広げていきます。

（2）住環境への支援

数値	評価指標	基準値	目標値
目標	新築住宅件数	181件 (H26)	200件 (H31)

新築住宅件数：税務課調べ

①住まいの確保への支援

- ・住宅の取得や賃貸への支援を検討します。

②快適な住まいへの支援

- ・住宅リフォーム補助など住環境の向上を進めます。

③空き家の利活用の推進

- ・利活用可能な空き家を把握し、活用に努めます。

④住みたくなるまちづくり

- ・土地利用の計画的な推進により、住環境に恵まれたまちづくりを目指します。

（3）若者への支援

数値	評価指標	基準値	目標値
目標	市内高校の就職内定率	99.1% (H26)	100% (H31)

①地元企業と高校の就職連携

- ・地元企業と高校との意見交換・交流の場となる就職応援会を開催します。

②通勤通学の支援

- ・公共交通機関による福岡都市圏等への通勤通学の支援を検討します。

③孫ターンの支援

- ・市外に住む孫が就職などを機に、朝倉市に住む祖父母との同居・近居ができるように就職や住宅の支援を検討します。

(4) 交通の利便性の向上

	評価指標	基準値	目標値
数値 目標	甘木鉄道甘木駅の年間乗客数	210,280人 (H26)	210,000人 (H31)
	コミュニティバスの 年間利用者数	31,975人 (H26)	33,400人 (H31)

甘木鉄道甘木駅の年間乗客数：交通事業者からの報告

コミュニティバスの年間利用者数：交通事業者からの報告

①通勤通学の利便性の向上

- ・パーク＆ライドを含め、公共交通機関による福岡都市圏等への通勤通学の利便性の向上を図ります。

②路線バス・コミュニティバスの充実

- ・路線バス・コミュニティバスの運行により交通環境の充実を図ります。

(5) 買い物しやすいまちづくり

	評価指標	基準値	目標値
数値 目標	買い物環境に不便を感じる市民の割合	25.0% (H26)	20% (H31)

買い物環境に不便を感じる市民の割合：朝倉市まちづくり市民アンケート

①出店したいまちづくり

- ・土地利用の計画的な推進により、民間事業者が市内に出店したいと思うまちづくりを目指します。

②身近な場所での買い物の実現

- ・日常生活に必要な食料品等の買い物に支障をきたさないように空き店舗の利活用を図るとともに、新規出店等に対する支援を検討します。

③外出困難な方への買い物支援

- ・外出が困難な方等に対して、食料品、日用品等の商品を届けられる仕組みづくりや民間活力への支援を検討します。